IPU 環太平洋大学 校友会

IPU環太平洋大学 校友会会長から見るIPU

2022.12.10

IPU校友会の会長を務めるのは、卒業後にIPUで大学職員として働いていた2期生の佐々木将志さん。学生として、職員として、IPUの成長と変化を見てきた人物です。大学時代のことや理事長のことをはじめ、校友会会長としての思いを聞きました。

佐々木将志(ささき まさし)
ソニー生命保険株式会社　岡山LPC第1支社　第7営業所長
1990年岡山市生まれ、岡山市在住。2008年、環太平洋大学次世代教育学部学級経営学科(現：教育経営学科）入学、2012年卒業。卒業後、環太平洋大学の職員として学生支援課に勤務。2015年(※要確認）よりワーキングホリデーでオーストラリアに1年留学。帰国し、環太平洋大学の広報課に勤務し、学生募集にまつわる業務を行う。
後に2019年にソニー生命保険株式会社に入社。現在はお金のコンサルティングを行うライフプランナーの採用・育成にあたる。IPU卒業生・在校生を支援する校友会の会長を2022年より務める。

仲間たちとずっと一緒だった大学時代

Q.佐々木さんはどのような大学生でしたか。

基本的にはずっと仲間といました。野球部だったんですけど、部活をちゃんとはしていなくて。自分の場合、野球で将来的に飯が食えるわけではないのがわかっていたので、「みんなが部活入るなら僕も入っとこうかな」という感じでした。

部活の仲間で固まって行動する人が大半だったんですけど、僕らは、各部のはぐれ者が集まっているグループだったんです。野球部・サッカー部・自転車競技部・ソフトボール部など。仲間たちと一緒にいて、あまり自宅に帰らず誰かの家に泊まって、焼き芋したりテスト勉強したり語ったりしていたのが面白かったですね。ずっと一緒だったので。

あとは、学園祭の実行委員長をしたり、卒業する先輩方を送り出す謝恩会を運営したりとか。まとめ役だったんじゃないでしょうか。

Q.当時一緒だった仲間たちと、今でも交流がありますか？

あります。昨日も同級生の1人が誕生日だったので、LINEでお祝いして。33歳になった今でも「そろそろみんなで集まらない？」と言っています。企業して社長になったやつもいれば、大手企業で働くやつや、消防士や教師などで頑張ってるやつもいて。みんなそれぞれの分野で、情報交換しながら高め合える仲間ですね。

大学で人の気持ちを考えることを学んだ

Q.大学時代に学んだことで、今に繋がっていると思うものはありますか？

他人の気持ちを考えることでしょうか。僕は高校出るまでは我が強くて、自分の意見を押し付けてしまうところがありました。大学では、県内外からいろいろな人が集結するので、言葉も違えば考え方も育ちも全く違います。自分の主観や物差しだけで生きてたら痛い目を見るなと。

駄目なところは注意してくれる仲間だったので、大学で相手の気持ちを考えることを教えてもらい学びました。それが今のビジネスにも繋がってると思います。

Q.大学の講義で、印象的だったものはありますか？

「無知の知」つまり「知らないことを知っている」という言葉が印象的でした。

また、人は20歳ぐらいで性格が決まると聞いたことも、印象に残っています。人の意見を聞き入れられず成長できない人になるか、幼い子どもや老人に意見されても耳を傾けて成長を続ける人間になるか。それが20歳ぐらいで決まると聞いたときに、「やべえ、このままじゃ前者だな」と思ったんです。後者になるためには、人の話を聞くことを意識しないといけないな、と。授業が気づくきっかけでした。

また、大学の4年間で約400万円の学費がかかります。授業料を単位で割ると、1回の講義は約5,000円になるんです。講義中に寝ていたら、それを捨ててるようなもの。なので、講義の90分で1つの単語でもいいから何かを学ばないと、という思考になりました。そのときから大学が面白くなって、授業に集中するようになったし、勉強っていいねと思ったんです。

IPUを100年続く大学にしたい

Q.現在は校友会の会長をされています。会長として卒業生に伝えたいことはありますか？

卒業生として誇りを持ってほしいです。例えば東京大学や早稲田大学の卒業生は、出身校を誇っているじゃないですか。そうさせたのは先人の卒業生なわけです。

30〜40年後、出身校を聞かれたときに、「岡山の環太平洋大学です」って出身校を誇れて、一般的にも「すごい大学を出てるな」って言われたい。限られた人だけがIPUは良いと言ってても駄目なので、卒業生全員が意識を持って日々を送ってほしいです。そうすることで大学が存続するわけなので。

僕はIPUを100年続く大学にしたい。その100年続く大学を支えるのはOB・OGで、我々がパイオニアじゃないといけないと思っています。

岡山県内では大学への知名度があっても、まだ全国の人たちがIPUを知り信頼しているわけではありません。でも、若い大学だからこその良いところもあります。創設者がまだ生きてるのは貴重。創設者に会いに行けますから。

大橋博理事長は常に変化する人

Q.佐々木さんからはすごくIPU愛が伝わってきます。どういうところが好きですか？

これまで会っていない人に会えると思います。都会のように近隣に飲みに行ったり、遊びにいくとこもないので、誘惑がなくて良い環境です。友達と語り合える時間が長いんですよ。

それと、学校法人創志学園の理事長である大橋博理事長を尊敬しています。「列車は走りながら作る」みたいな人なんですよ。普通は完成させてから走るじゃないですか。そこを、「それでは遅い、走りながら作っていこう、常に進化していこう！」みたいなスタンスなんです。

だから、働いている時、同じような1年間なんてありませんでした。在学中の4年間も激動でしたが、職員になってからも「振り落とされるな、変化に対応しろ」って感じで。常に変化するので、学生にもその変化を楽しんでほしいですね。

Q.大橋理事長について、もう少し詳しく教えてください。

1期生〜4期生の皆さんにとってはアイスを配るおじさんというイメージかもしれません笑。でも僕が近くにいたから思うことではあるんですけど、理事長ってすごいんですよ。

教育者としての大橋博は、大学生のころに銭湯で4人の子供に数学を教えたところから始まっています。普通だったら、教育に携わりたければ教員になるじゃないですか。でも大橋理事長は、自分で塾を立ち上げたんです。さらにそこで「教育の行けるとこまで行く」と信念を決めたみたいで。

教育の最高機関を作りたいと、1990年にはニュージーランドに大学を作りました。今では、高校・専門学校と全国展開して、予備校も塾も保育園も運営して海外にも大学があって。それだけの規模のことを1代でやっている。すげえ男だなと思っています。

それに、学生のことよく覚えているし、学生が大好きですよね。温かいです。理事長は「自分の考える教育を続けるために大切なことが何か」をわかってる人。

これからの日本を支える子どもたちを教育するという明確な目的を腹落ちさせていて、一生涯これをやり抜くんだと思ってる人なんじゃないでしょうか。

Q.今の学生にアドバイスをお願いします。

学生時代は、最も自分次第で何でもできる時間だと思うんですよね。1分1秒も無駄にして欲しくありません。

また、1人でも多くの人と仲良くなってほしいですね。「固まるな、外に出ろ」と。同じ部活の人だけで固まってしまうと、部内の人とは仲良くなれます。サッカー部ならみんなサッカーが好きで似たところの多い集団なんですから。でも結局社会人になって外に出たときは、部活をしていない人もいる、多種多様な人と関わっていくわけじゃないですか。

大学生は、大人になる1歩前の、最後の練習場所だと思います。そこでみんなより1歩高い位置に行きたいなら、やっぱりコミュニケーションを多くの人と取っていたかどうか。それが、大人になったときのアドバンテージになると思います。「友達を作れ」ということです。

Q.今後の校友会の展望を聞かせてください。

ダサい話ですけど、「力貸して」と思っています。卒業生が誇れる大学にしたいので、1人でも多くの人が「IPUのためにやってあげようか」って思ってくれたら。

あとはIPUは創設時「どこにもない大学」がテーマだったんですよ。なので、どこにもない大学にふさわしい、どこにもないクリエイティブな校友会を作りたい。みんなが豊かになれる会にしたいですね。

IPUを出てよかったなとか、大学とか関わっていてよかったなとか、子供を入学させたいなとか。ずっとあそこで学んだ仲間と仲良くしておきたいなって思えるような、豊かな会にしたいですね。